

# 文教厚生常任委員会

委員会開催日 9月15日

(文責・川上茂次委員長)

今回、本委員会に付託を受けた案件は議案4件で、審査の結果、原案のとおり可決しました。

ここでは、特に審査の中で出された主な意見、要望などをお知らせします。

(一) は所管課名

## ●議案第96号「平戸市手数料条例の一部改正について」

個人番号カード再交付手数料については1枚につき800円となっているが、別途電子証明書にかかる手数料200円がかかるので実質1千円の再発行手数料になるとの説明があった。

なお、この200円の手数料については地方公共団体情報システム機構が定め、機構からの委託に基づき市区町村において徴収することとなるため、手数料条例の制定は不要であるとのことであった。本市では通知カードが11月

見込んでいるとの答弁があった。

【市民福祉部市民課】

## ●保護者のニーズや地区内のバランスを考慮

「山田保育所改修事業」に關し、山田保育所を平成29年度から認定子ども園にするために保健室等必要な設備および昭和59年に建築され老朽化が目立つことによる大規模改修を見据えた設計委託業務であるということだが、生月地区全体の保育バランスに影響はないのかとの質問に対し、平成28年度で閉所する生月保育所の施設利用を含め関係者と協議しており、保護者のニーズや地区内のバランスを考慮しながら進めていくとの答弁があった。

【市民福祉部福祉課】

## ●木質バイオマス利用の実現可能調査を委託

「地球温暖化対策推進事業」に關し、CO<sub>2</sub>排出ゼロ都市宣言を行なった本市が、温室効果ガスがゼロとみなされる木質バイオマス利用の実現可

## 行政視察報告

平成27年7月14日から16日までの3日間、岡山県瀬戸内市および新見市で次のとおり調査を行なった。

### ◎岡山県瀬戸内市

調査地および調査内容

### ◎岡山県新見市

複合施設(きらめき広場・哲西)について

ICT教育の推進について

### 【委員の所感】

### ●川上 茂次 委員長

「瀬戸内市の公設公営の新図書館運営について」図書館建設準備室長の嶋田学氏より説明を受けた。説明の中で、瀬戸内市長の「地域文化・教育の向上・図書館職員と利用者および市民の人材育成という学習の視点こそ図書館の役割であり、よって公設公営の図書館にこだわった」という信念に感動した。市長は館長候補を建設前に公募し、嶋田氏を採用。企画課に所属させ

### ●田島 輝美 委員

「拠点を作って地域の暮らしを守れ」NHKおはよう日本でも放送された、先進的な拠点づくりに取り組んでいる地域・岡山県新見市の旧哲西町。今回、文教厚生委員会では生活に必要なさまざまな機能を集約させた拠点「きらめき広場・哲西」を研修させていただいた。「きらめき広場・哲西」は、保健・医療・福祉・教育・文化・行政などさまざまな機能が備わった拠点施設であり、旧哲西町長の深井氏に館内を案内していただき、建設の経緯や苦労話を拝聴した。熱い思いと住民との合意形成が箱物をつくる上で最も大切であることを強調された。深井氏の話に感銘を受けた。

「次の時代を見据えた、市民の生活を支える施設をつくる」、全国的に消滅する可能性がある集落が数多くあると報告される中、地域の暮らしを守る拠点づくりが注目されている。住民にとって「1つのところで何でもできる」これほど便利なことはない。高齢社会を

図書館サービスのネットワークを全庁的に作った。来年度完成する図書館の充実のために司書4人を正規採用し、図書館職員が「まちに出る」ことにより地域やさまざまな関係者を巻き込むことで、図書館が市民の課題を解決する情報拠点となる。まさに図書館行政の新方向性であると感じた。

新見市複合施設「きらめき広場・哲西」は、合併前に策定した哲西町総合整備計画の中核を成す複合施設で、新見市役所哲西支局・哲西認定こども園・民間医による内科と歯科診療所・保健福祉センター・文化ホール・生涯学習センター・図書館、民間および市営バスターミナルなどが円形施



設に入り、人の出入りが自在で非常にコンパクトである。「きらめき広場・哲西」建設による効果は、利用者の増加・住民の利便性の向上・交流機会の増大であり、課題は一体感の構築・アクセス手段・維持管理費である。

## ●平石 博徳 副委員長

新図書館の運営について、平成23年を初年度として、「人と自然が織りなすしあわせ実感未来都市 瀬戸内」を将来像に新たなまちづくりの道筋を示し、「瀬戸内市としてよかん未来プラン」を策定し、7つの指針の基本計画をベースに市民との意見交換の場である「としよかん未来ミーティング」を開き、市民の意見やアイデア等、提案された新しい図書館づくりを進めていた。市民と図書館がどのような関係を築いていくべきか、

能調査を委託するということが、委託業者の選定および今後の流れについてどうなるのかとの質問に対し、入札にはなるが業務が特殊なため本市および県内の業者に委託はできないのではないかと想定される。調査結果が出て事業化が可能と判断されれば市内関係団体と協力し、国の採択を得られるよう図りたいとの答弁があった。

【市民福祉部市民課】

## ●健康・医療・保健・福祉に関する専門書を充実

「図書館入事業」に關し、平戸市医師会からの寄附であるということだが、どのように選書を行うのかとの質問に対し、寄附者から健康・医療・保健・福祉に関する本を未来創造館に取り揃えてほしいという要望があった。本館にまだ数少ない専門書を加えながら本年度中に選書を行いたいとの答弁があった。

【教育委員会生涯学習課】

今後の運営企画に極めて有益な事が得られた。

複合施設(きらめき広場・哲西)について

約2千800人が暮らす町(旧哲西町)で、生活に必要なさまざまな機能を集約させた拠点を造り、1つの建物にATM、約7万冊の本がある図書館、認定こども園、行政の窓口、診療所などの施設を集めた。さらには、施設のすぐ隣に道の駅があるため、総じて「1つのところで何でもできる」集合体が出てきた。住民が住みやすい環境づくりを考える先進的発想に感心させられた。人口減少が進み、地域の暮らしをどう守るかが大きな課題となる中、拠点づくりの行方が期待される。

ICT教育について

新見市では、教育現場でICT機器を使ったネットワーク環境を整え、生徒一人一人にタブレット端末を配布していた。哲多中学校では電子黒板を用いた実際の授業を見せたいいただいた。必要に応じたタブレットの使用、それを用いた生徒の活発な授業の様子